

海外渡航のためのワクチン

海外渡航者の予防接種には、二つの側面があります

一つは入国時などに予防接種要求する国や地域に渡航するために必要なものです

もう一つは、海外で感染症にかからないようからだを守るためのものです

日本国内で行われている海外渡航の際に必要な、もしくは検討される予防接種について説明します

◎ 予防接種証明書を要求される場合

感染症が流行している地域や国に入国する際、あるいは乗り継ぎのときに予防接種証明書の提示を求める国があります

また目的によっては入学や留学、病院で面会の際にも要求される場合があります

◎ 自分自身を感染症から守り、周囲の人への二次感染を防止する

海外では日本にない病気が発生しています また日本にいる時よりも感染リスクが高い病気があります 予防接種により罹患や重症化のリスクを下げることができます

予防接種の種類によっては数回接種をしなければならないものもあるため、3カ月から半年ほど日数がかかりますので余裕をもった日数で接種をご検討ください

また、接種される方の母子手帳を必ずご持参ください

● 破傷風(取寄せ)

破傷風菌は世界中の土壌に広く分布し日本でも毎年患者が発生しています

傷口から感染し神経に作用して死にいたることもあります

通常の定期ワクチンの五種混合、四種混合、三種混合、二種混合に含まれていますのでご確認ください

定期接種は20歳前半くらいまでは免疫が持続すると言われていました

その後は1回の接種で10年間は有効です

● ジフテリア(取寄せ)

ジフテリアは患者の咳などにより人から人に感染します

こちらも破傷風同様、通常の定期ワクチンに含まれていますのでご確認ください

その後は1回の接種で10年間は有効です

● A型肝炎(取寄せ)

A型肝炎は過熱処理されていない食べ物や飲み物から感染する病気で、上下水道の整備が悪い国に広く分布します 発症すると入院治療が必要となる場合があるためお勧めしています

● B型肝炎

以前は輸血や医療従事者の針刺し事故など血液を介した感染とされてきましたが、現在は新生児期を中心とした母子感染と思春期以降の性行為(唾液や体液の濃厚接触)を通じた感染が主な原因です 多くはおよそ3ヶ月で肝機能が正常化しますが2%ほどは劇症化して死亡することもあります 後に肝硬変、肝がんになる可能性があります

● 狂犬病(取寄せ)

発症すれば100%死亡する病気です 一部の国を除いて全世界に分布しています イヌだけでなくキツネ、アライグマ、コウモリ、ネズミなどの動物にひっかかれたり咬まれたりすることによって感染します

● 日本脳炎

日本脳炎ウイルスを保有する蚊に刺されることによって起こる重篤な急性脳炎で死亡率が高く麻痺などの後遺症を残すことが多い病気で、最近ではオーストラリアでも発症しています 通常の定期ワクチンが接種できていたら問題ないですが、4.5年以上接種間隔があいている場合は1回接種することが望ましいです

● 髄膜炎菌感染症(IMD) (取寄せ)

髄膜炎菌は感染者の咳やくしゃみの飛沫によって感染し流行をもたらします 症状の進行が早く、発症後たった1~2日で死に至ることがあります 寮などの共同生活や日常のスキンシップ、大規模イベントで感染します そのため学生寮などで生活を行う10代が最もリスクが高いとされています

● 麻疹

感染力が強く簡単に人から人に感染するウイルス性発疹感染症です 脳炎や肺炎になることがあります 死亡することもありますので必ず通常のワクチンを2回接種してください 当院ではMRワクチン麻疹風疹混合生ワクチンとして定期接種をします

● 風疹

麻疹同様に感染力が強いウイルスです まれに脳炎を引き起こし入院が必要になります 妊婦に感染すると生まれてくる子どもが難聴、白内障、心臓などの病気などをもって生まれてきますので周囲の人も含めて2回のワクチン接種で予防することが重要です 麻疹同様にMRワクチンとして定期接種をします